

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	清泉女学院短期大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	セイセンジョガクインタンキダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立短期大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ1、インターンシップ2
	学部・研究科等名	国際コミュニケーション科
	担当教職員名・役職	武田るいこ・教授、片瀬拓弥・准教授、森本佑子・殺人教員、宮下淳・キャリア支援センター長、三ツ橋敏子・キャリア支援センター
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	58
受入企業等数	40	
受入企業等名	https://www.seisen-jc.ac.jp/academics/internship.php	
インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業等での実務体験、企業理解を深めるためのオリエンテーション、振り返り・プレゼンテーションなど、就業体験を中心とした企業毎に工夫されたプログラムで実習を行っている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1学年を対象に、夏期・春休休業中の7日から10日間のインターンシップ実習を組み合わせた専門教育科目「ビジネス・インターンシップ」として実施。働くこと、学ぶことへの考察を深め、職業意識の形成・職業観の確立、学習意欲の喚起と自立心の向上、業界理解を深める機会として位置づけている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	担当職員が実習中の企業等を訪問するなどして企業の担当者、学生にそれぞれヒアリングを行っている。

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全7回の事前学習の中で、体験学生との交流会(1回)、インターンシップの意義と目的の理解(1回)、企業研究(1回)、ビジネスマナー研修(2回)、実習先との事前・実習中・事後の留意点解説(1回)、実習後の確認等(1回)を実施。その他実習直前に、グループ面談(1回)を行い、参加意識を高めている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	就業体験と自らの学びがどのようにつながったのかを振り返る目的で、学修成果を確認する報告書の作成と自己評価およびインターンシップ後のグループワークと報告会を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	担当職員が実習中の企業等を訪問するなどして企業の担当者、学生にそれぞれヒアリングを行い、円滑に実習が進み、学生の目標達成に向けた助言を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習後の振り返りと学修成果を確認する報告書、受入企業側の評価、実習前の目的と照らし合わせ、学生の意識の変化の確認を行っている。また、実習を通して得た課題や新たな気づきを今後の学生生活に生かせるような指導を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間7日～10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入企業等で実働7日～10日の実習を行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前にインターンシップの目的を受入企業等にご理解いただきプログラムや計画を立てていただいている。実習中も受入企業担当者と本学担当職員が連絡を取り合える関係を構築し、スムーズな実習運営を心掛けている。実習後は、学生に対する評価と概評をいただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	「ビジネス・インターンシップ I」 http://www.seisen-jc.ac.jp/syllabus/kamoku/t/k0173.html 「ビジネス・インターンシップ II」 http://www.seisen-jc.ac.jp/syllabus/kamoku/t/k0558.html
問い合わせ先	大学等名	清泉女学院短期大学
	担当部署名	キャリア支援センター
	担当者役職名	キャリア支援センター長
	担当者氏名	宮下 淳
	電話番号	026-295-1313
	メールアドレス	miyashita@seisen-jc.ac.jp